

No.310



一般社団法人

青森県理学療法士会ニュース

第35回青森県理学療法士学会のご案内（第2報）

第35回青森県理学療法士学会 学会長 小島 俊夫
準備委員長 長谷川 至

趣 意 書

私たち理学療法士はクライアント（“患者”あるいは身体に“障がい”を有し運動機能の維持・改善を必要とする人）へ何を提供できるだろうか？笑顔、やさしさの伴った言葉がけ、痛みの緩和、意欲の引き出し・・・、その人の経験や哲学からさまざまな答えが出てくるはずである。頭の中だけにとどまるならば独創性のある答えも浮かび上がるかもしれない。しかし、絞り込むようにして出さなければならぬ答えは“質の高い理学療法”である。支援を受ける人自身の心に変化が現われ、人生をいつか小さく輝かせたい、そんな気持ちが湧きあがることに立ち会える仕事を私たちもしてみたい。

そこで本学会では、「特別講演」、「教育講演」を通じて、臨床で直面する諸問題を解決していくためのコツを、経験豊富な諸先生方からご講演頂きます。日々の臨床の中に身を置いて積み上げた知識、経験に加えて、やさしさ、しなやかさの伝わるような理学療法を実践していくための一つのきっかけを提供したいと考えております。また、一般演題についてはより多くの演題に対応できる体制を整えておりますので、ぜひ多くの会員の皆様にご参加下さいますようお願い申し上げます。

<開催要項>

会 期：平成23年3月19日（土）・20日（日）
会 場：弘前大学医学部保健学科総合研究棟（第17～24講義室）
プログラム：

[1日目] 3月19日

特別講演 「ロコモティブシンドローム（仮）」
講師 植山和正 先生（弘前記念病院院長，医師）
一般演題，県士会事業報告会，情報交換会

[2日目] 3月20日

教育講演1 「中枢神経系疾患の歩行に関するテーマ（仮）」
講師 高見彰淑 先生（秋田県立脳血管研究センター）
教育講演2 「臨床実習指導に関するテーマ（仮）」
講師 古木名寿登 先生（尾野病院）
教育講演3（公開講座） 「生活環境支援，住宅改修に関するテーマ（仮）」
講師 高樋 忍 先生（株式会社クレイドル，建築士）
教育講演4（公開講座） 「足部機能，運動連鎖に関するテーマ（仮）」
講師 尾田 敦 先生（弘前大学大学院保健学研究科）
一般演題，表彰式，次期学会長挨拶

※教育講演は，一部同時進行となります。

※教育講演3・4は，関連職種・団体等を対象とした公開講座となります。

問い合わせ先：弘前記念病院リハビリテーション部 長谷川至
〒036-8076 弘前市境関字西田 59-1
TEL 0172-28-1211 (代) E-mail pthase2005@yahoo.co.jp

<演題募集要項>

I. 応募資格

- 1) 筆頭演者は、青森県理学療法士会会員に限ります。
- 2) 演題は未発表のものに限ります。ただし、県士会の症例検討会等で講演したものを、内容的に発展させて発表する場合はこの限りではありません。
- 3) ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず入れて下さい。

II. 募集期間

2010年10月1日(金)～12月20日(月)

III. 応募方法

応募方法は以下の2つがあります。

1. メールによる演題登録

- ①メールの件名に演題応募と記し、メールの本文に演題名(サブタイトル)、発表者及び共同演者の氏名及び所属を必ず明記して下さい。
抄録原稿は添付して下さい。
- ②抄録原稿は演題名(サブタイトル)、発表者及び共同演者の氏名及び所属(発表者にアンダーライン)、キーワード3個(各キーワード間は(・)で区切って下さい)、本文の順で書いて下さい。本文は、目的、方法、結果、考察、まとめ等の小見出しをつけ1,200字以内にまとめて下さい。
- ③メールアドレス：aomoript2010@hotmail.co.jp
- ④メールによる演題登録5日以内に演題受け付けのメールを返信します。返事がない場合は、下記連絡先までお問い合わせ下さい。

2. 郵送による応募(紙面原稿とCD-R)

- ①A4版用紙1枚に、演題名(サブタイトル)、発表者及び共同演者の氏名及び所属を必ず明記して下さい。
- ②抄録原稿はA4版用紙1枚とし、演題名(サブタイトル)、発表者及び共同演者の氏名及び所属(発表者にアンダーライン)、キーワード3個(各キーワード間は(・)で区切って下さい)、本文の順で書いて下さい。本文は、目的、方法、結果、考察、まとめ等の小見出しをつけて1,200字以内にまとめて下さい。
- ③CD-Rを必ず同封して下さい。Windows版のMicrosoft Word及び一太郎以外のソフトを使用した場合は、テキスト形式で保存し、必ずCD-Rにソフト名を明記して下さい(例：Mac版の一太郎)。
- ④演題受付後に演題受付のご連絡を致します。発送から10日以上経過しても連絡がない場合は、下記までお問い合わせ下さい。

3. 発表形式

発表形式は、口述、ポスターのいずれかです。

詳細につきましては、次号ニュースまたはホームページにてご案内致します。

4. 演題応募連絡先

第35回青森県理学療法士学会演題担当 對馬新吾
医療法人ときわ会ときわ会病院リハビリテーション科内
〒038-1216 南津軽郡藤崎町大字榊字亀田 2-1
TEL 0172-65-3771 FAX 0172-65-3773
E-mail aomoript2010@hotmail.co.jp

平成22年度 青森県理学療法士会理事会議事録要約

事務局長 後藤 明教

<第3回理事会議事録>

日 時：平成 22 年 7 月 24 日（土）14：00～16：30

場 所：あおもり協立病院 会議室

出席者：伊藤和夫，相馬光明，中村正直，山谷光仁，安田友久，後藤明教，三浦時男
小島俊夫，長谷川至

書 記：木村文佳

案件：

I 報告事項

1. 第 35 回青森県理学療法士学会企画・予算案報告
 - ・学会長：小島 俊夫 準備委員長：長谷川 至
 - ・会 期：平成 23 年 3 月 19 日～20 日 会 場：弘前大学医学部保健学科
 - ・参加見込み人数 200 名 予算総額 80 万円
 - ・特別講演 1 題，教育講演 4 題，一般演題 30 題を予定。
 - ・抄録は今までの 2,000 字から 1,200 字に減らし，抄録集を作成する予定。
 - ・一般社団法人として，公益性を重視する上でも，公開講座は継続して企画して欲しい。但し，公開講座に関しては，学会予算と別枠で企画することで理事会承認済み。
2. あすなろ・さわらび医療療育センターの福祉施設移行に抗議する要望書の提出について
 - ・平成 22 年 7 月 7 日に県庁障害福祉課を，伊藤会長と古木名職能局長が訪問し要望書を提出。要望書提出までの経緯や小児リハ医療の必要性を訴え，意見交換を諮った。
3. 第 6 回日本介護支援専門員協会全国大会 in 青森が来年度開催される予定
 - ・日時：平成 23 年 8 月 6 日～7 日
 - ・会場：青森市民ホール

II. 協議事項

1. 各部局より

1)事務局

- ・会員異動：なかざわ整形外科がなかざわスポーツクリニックに統合され会員も異動
転入 2 名，転出 2 名，新規休会 1 名，改姓 1 名

2)職能局

- ・平成 22 年 8 月 21 日（土）15：00～ あおもり協立病院 会議室において
第 1 回施設管理者懇談会を開催予定で企画を検討している。

3)広報局

- ・平成 22 年 7 月 10 日～11 日 第 24 回弘前市健康祭り開催
リハビリコーナーへの来場者は，1 日目約 340 名，2 日目約 370 名であった。
- ・平成 22 年 8 月 21 日（土）14：00～ 県立保健大学において
理学療法士を知ってもらうことを考える会を開催予定で企画を検討している。

4)教育局

- ・平成 22 年 8 月 28 日に吸引実技研修会を開催予定
まだ，協会からのテキストができておらず，情報が少ない。
今回の研修会はモデル事業として行い，参加費を徴収しなくて良いが，受講者へのアンケートをとるなど，今後の研修会あり方を検討する必要がある。
- ・東北ブロック主催必須プログラム研修会は，10 年目以降を対象としているが，青森県士会では，9 年目以前の会員でも読み替えを申請すれば認めることとした。

5)社会局

- ・新組織での業務内容を整理した
- ・平成 22 年 8 月には，車椅子スポーツイベントを開催予定。

- ・スポーツ理学療法に関して各大会への支援協力を行う。
- ・訪問リハ・地域リーダー育成研修会への参加者として、中村理事を推薦する。

6)支部局

- ・9月の拡大理事会の前に各支部活動に関して、6支部長および事務局長との連携を図る。

7)第30回東北理学療法学会準備委員会

- ・平成24年度は青森県士会が担当となるので、準備作業を進める。

8)士会40周年記念事業実行委員会

- ・記念誌がまだ完成していないが、3月の時点で仮印刷してから期間がかりすぎており、信頼のおける印刷会社なのかどうかチェックが必要である。どこまで、進行しているのか現物を見せて欲しい。

III. その他

1. 平成22年10月23日～24日にかけて、県立保健大学で開催される、青森県認知運動療法勉強会主催の「リハビリテーションのための認知神経科学」の研修会の名義後援を承諾

次回理事会開催日 9月25日

支部活動報告

＝青森支部＝

<平成22年度青森支部総会並びに第1回研修会&新人歓迎親睦会の報告>

青森支部事務局長

青森溪仁会病院 米田 良平

平成22年7月10日（土）、青森市民病院にて平成22年度青森支部総会並びに第1回研修会が開催されました。出席者は35名とやや少なめでしたが、研修会では伊藤和夫県士会長より『現在の理学療法士を取り巻く環境について～全国的視点より～』という演題で、ベテランの先生方の若かりし頃の写真を交えながら県士会発足からの歩みも含め、講演して頂きました。出席者は新人・若手が多く、驚きと笑いが入り混じりながらの非常に貴重な講演でした。次いで、青森市民病院清藤恭子先生、青森慈恵会病院山田文武先生に病院紹介をして頂きました。昨年度も同様の企画を行いましたが、他施設での取り組みや問題点を聞く事ができ非常に貴重な機会であると感じており、今後もこのような機会を設けていけたらと考えております。総会では、昨年度の事業報告及び収支報告、今年度の事業計画及び予算案を承認頂き、今年度も昨年度同様、年2回の研修会・総会・親睦会を開催する運びとなりました。

総会終了後、美食居酒屋志絵扶にて新人歓迎親睦会が開催され、今年度は新人・若手からベテランの先生方まで、支部開設来最多の33名の出席を頂きました。お忙しいところありがとうございました。今年度もまた、恒例となった施設ごとの自己紹介を行い、終始笑いの絶えない楽しい宴となりました。私は、他施設の先生方と交流し情報交換するこのような機会は、非常に貴重であると常々感じており、今後とも多くの会員の皆様にご参加頂ければと思っております。次回、忘年会でお会いしましょう。



＝西北五支部＝

<第4回西北支部特別研修会>

テーマ 「いま、臨床実習を考える～受け入れ施設の立場から～」

近年、理学療法士養成校の数が急激に増えると共に、学生の質の低下、臨床実習先でのトラブルなど様々な問題が出ております。そこで今回、西北五支部で臨床実習指導を行っている3施設からの現状の報告を基に、臨床実習指導について考える機会を企画しました。パネルディスカッション形式で進行することを考えていますので、西北五支部以外の方でも臨床実習指導でこんな悩みがある、依頼があるが受けるかどうか迷っている、その他臨床実習に関する疑問・意見をお持ちの方は是非ご参加ください。

パネリスト：西北中央病院 舘山 智格 先生
白生会胃腸病院 外崎 和朋 先生
尾野病院 幡野 克仁 先生

座長：尾野病院 古木名寿登 先生

日時：平成22年9月25日（土） 15:00～16:30

会場：会場が変更になりましたので、参加される方はお間違えの無いようにお願いいたします。
五所川原中央公民館 2階 視聴覚室

会費：青森県理学療法士会員は無料

交通：JR五所川原駅から徒歩5分

無料駐車場はありますが、当日、他研修会もあり混雑が予想されますので、係りが第二駐車場へ誘導いたします

情報交換会：会費3,000円～4,000円程度で予定しています。

参加希望の方は、白生会胃腸病院 外崎までお願いいたします。

連絡先：hakuseikaireha@yahoo.co.jp

※新人教育プログラム単位はトピックスになります

＝上十三支部＝

<上十三支部研修会印象記>

介護老人保健施設やすらぎ苑 菊池 佐知

今回 7月 25日に十和田中央病院にて開催された、理学療法士会上十三支部と作業療法士会八戸ブロック共催の研修会に参加しました。研修会のテーマは、『慢性脳卒中者の基本動作における環境適応（その 2）平面・移動空間への適応～立位から歩行～』というもので、富士温泉病院・作業療法士の高橋栄子先生を講師に、講義と実技をしていただきました。

はじめは、立位・歩行の制御における視環境の重要性についての講義を行いました。体性感覚のほかに、対象者の視覚的認知によって寝返りや起き上がりなど、動作へ大きく影響することを再度学習しました。その後、寝返りの誘導の仕方や、座位・立ち上がりの評価方法を実技にて行いました。健常者ではなかなか大きな違いを見つけることが難しかったのですが、実際に講師の先生から直接指導していただき、とても貴重な経験をさせていただきました。今回の研修で学んだことを、実際の評価や訓練、他職種への指導へと活かしていきたいと思えます。

十和田市立中央病院 中里 準也

7月 25日十和田市立中央病院で行われました「慢性脳卒中患者の基本動作における環境適応（その 2）平面・移動空間への適応～立位から歩行～」に参加させていただきました。講師は富士温泉病院、作業療法士の高橋栄子先生で講義と実技を含めたものでした。

講義の内容は、はじめに前回講義された内容の復習をかねて寝返り・起き上がりの実践を行い、重心移動の仕方、注意点などの講義から始まりました。その後、動作における安定性において視覚からの情報・足底感覚の重要性など改めて実感し、今後の治療における自分への課題となりました。実技では、健常者で立ち上がり方の違いを見つけ実際に治療しながら指導をうけるといものでした。グループに分かれて行い、それぞれのグループにおいて活発な意見交換を行いながら行っていました。治療前・後を比べ、立ち上がりの仕方が変わり治療の効果がでていいることを確認しながら進めていくことができました。今回の講義と実技を踏まえ、これからの評価・治療に生かせるよう、自分の知識・技術を高めていく必要があると改めて感じさせられました。今後、学んだことを糧にして評価・治療に生かしていきたいと思っています。



弘前市「市民の健康まつり」報告

弘前脳卒中センター 宮古 郷平

今年で 24 回目を迎えた「市民の健康まつり」が平成 22 年 7 月 10 日（土）・11 日（日）に弘前総合保健センターで開催されました。例年通り多くの来場者があり、2 日間で延べ 2,000 人（10 日に 900 人、11 日に 1,100 人）の来場がありました。

青森県理学療法士会では、「リハビリと介護相談」というコーナーを設け弘前脳卒中センターから長谷川国俊 RPT・宮古郷平 RPT, 老健つがるから宮川舞子 RPT, 弘前大学医学部保健学科 PT 専攻から村上公英 PTS が参加しました。今年も、バランスボールとバランスパッドを用意し来場者にリハビリの一部を実際に体験していただきました。リハビリコーナーには 2 日間で延べ 707 人（10 日に 335 人、11 日に 372 人）の来場者で賑わいました。今回参加させていただき、幅広い年齢層の来場があり市民の方々の健康に対する関心の高さが伺えました。また、リハビリという言葉は知っているが実際にどのような訓練をどのような目的で行っているのかということを知らない方が多いと感じました。今後、このような機会を通して市民の方々にリハビリについて少しでも多く知っていただき、理学療法の分野がさらに発展していければいいと感じました。

「ふくしねぶた」に参加しました！

広報局長 小村 博

毎年 8 月 4 日に実施されている「ふくしねぶた」は今年で 30 回目を数えます。今回は当士会会員 6 名プラスαと、過去に無い参加協力があり大変嬉しく思っています。欠端さんの熱意ある勧誘の賜物です。以下参加者の感想をいくつか紹介いたします。

“みちのく青海荘 金澤 有華”

初めてのねぶた参加でしたが、皆さんがやみつきになる理由が分かりました。

とても楽しかったです！！津麦園の皆様と一緒に 2 時間跳ね続け、汗だくでクタクタでしたが、来年もぜひ参加したいと思いました。小村先生にはおにぎりやサラミ、ビールまで準備して頂きありがとうございました。ごちそうさまでした。まだねぶたに参加したことがない方は、来年の参加をおすすめします。貴重な体験をありがとうございました。

“甲田苑 中野 のぞみ”

今回初めて参加させていただきました。2, 3 日筋肉痛でロボットになってしまいましたが、とても楽しかったです。

“自宅会員 欠端 睦子”

初めて参加しましたが、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。津麦園利用者の車椅子を押させて頂いたり、跳人として 20 年前と変わらぬ(?) ジャンプを繰り返したり…、何よりも参加した皆さんと『たくさん汗と笑顔』を共有できたことが最高でした！



研修会のご案内

平成22年度 青森県理学療法士会主催 理学療法士特別講習会のご案内（第3報）

学術局研修部長 梅村 孝博

テーマ2：「急性期脳卒中の理学療法の実際」

日 時：平成22年10月30日(土)9:00～16:00(8:30～受付開始)
31日(日)9:00～12:00(全6コマ) (予定)

場 所：東北メディカル学院 2階治療室, コンピューター室 (予定)

講 師：阿部 浩明氏(財団法人広南会 広南病院・東北療護センター 理学療法士)
辻本 直秀氏(講師補助員) (同病院 理学療法士)

講習会内容：以下の5つの主要なテーマで構成

①脳卒中の病態の理解

脳卒中の病態を理解して、それぞれの疾患に対して行われる治療と医学的管理を学ぶ。

②理学療法における脳卒中急性期のリスク管理の実際

理学療法を実施するうえで把握しておくべきリスクとその管理について概説する。

③脳卒中急性期の理学療法の実際

脳卒中急性期に行われる理学療法の実際、装具療法の実際について概説する。

④脳画像の理学療法への活用

理学療法において特に関連深い、運動機能と感覚機能について神経解剖を理解する。

基本的な脳画像の診方を学ぶ。コンピュータを利用した三次元的な神経線維の描出を演習してMRIやCT画像上で線維の走行を把握する。応用編として理学療法における脳画像活用の実例を紹介する。

⑤ **Contraversive pushing** (pusher 現象) に対する理学療法の実際

脳卒中急性期に多くみられる本現象のメカニズムや具体的なアプローチ、さらには責任病巣や症例ごとの回復経過を紹介する。また、実際の介入方法を実技指導する。

受講費：3,000円

定員：30名程度 **※事前登録要**

懇親会：4,000円程度(予定)

10月30日(土) 講習会一日目終了後

八戸市中心街を予定 **※詳細(時間, 場所など)は後日連絡**

※講師の阿部先生も参加予定であり, 貴重な情報交換の場になるかと思っておりますので是非申し込みください。

申込方法：下記の必要事項記入の上, **メールもしくはFAXにてお申し込みください。**

①講習会名 ②氏名(フリガナ)・性別 ③所属先 ④所属先のTEL・FAX・E-mail

⑤経験年数(〇年目) ⑥情報交換会の出欠 ⑦公文書の有無

⑧22年度協会及び県士会会費納入の有無

申込先・問い合わせ先：

〒039-1522 青森県三戸郡五戸町苗代沢3-6 東北メディカル学院 梅村孝博

TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034 E-mail pt.umemura@rinken.ac.jp

申込開始・締切日：平成22年6月1日(火)～9月30日(水)17:00

※受講決定通知及び講習会の詳細につきましては, 決定次第, メール等でご連絡します。

※受講者が定員を超えた場合, こちらで各所属施設または各支部で調整させていただく場合もございますので, ご了承ください。

※受講者数につきましては、30名定員に対し残り僅かとなっております(8月中旬)、定員を超えた際、締切とさせていただく場合もございますので、お早めにお申込またはお問い合わせください。

テーマ 3：「介護予防関連講習会 ～高齢者の地域生活を支えるための評価、そして実践へ～(仮)」

日時：平成 22 年 11 月 20 日(土)～21 日(日)

スケジュール：11 月 20 日(土) ※県士会員対象

12:30 受付開始

13:00～16:00 テーマ：「E-SAS」 担当講師：二瓶先生

21 日(日) ※県士会員, 会員外対象

9:30 受付開始

10:00～12:00 テーマ：「認知症」 担当講師：山上先生

13:00～15:00 テーマ：「リスク管理」 担当講師：舟見先生

場所：(学)臨研学舎 東北メディカル学院 3階 大教室

講師：二瓶健司氏(三春町立三春病院 理学療法士, 協会 E-SAS 推進委員会委員)

舟見敬成氏(総合南東北病院 理学療法士)

山上徹也氏(高崎健康福祉大学 保健医療学部理学療法学科)

講習会内容：

テーマ：「生活のひろがりに着目した介護予防評価-Elderly Status Assessment Set (E-SAS)-」

担当講師：二瓶 健司先生

日本理学療法士協会では、国民の健康寿命の延伸に貢献することを目的とし、高齢者の自立支援のあり方を平成 17 年度から厚生労働省の老人保健健康増進等事業にて検討してまいりました。全国規模の調査研究の結果、地域や人との関係性、および地域における活動範囲が介護予防事業の社会科学的な評価項目として重要であることが明らかとなりました。そして、活動的な地域生活を指向した実践的なツールとして **Elderly Status Assessment Set (E-SAS)** が完成しました。今回は、この **E-SAS** の紹介に加え実際の使用例や効果的な介護予防についてもお話しさせていただく予定です。地域生活のひろがりに着目した評価や考え方が、各地で展開されている介護予防事業に寄与できれば幸いです。

テーマ：「リスク管理」 担当講師：舟見 敬成先生

当院心大血管リハ実施の 8 割以上は 65 歳以上の高齢者であり、そのうちの 5 割程度は 85 歳以上である。そして、当院の平均在院日数が約 12 日であり、心大血管リハ実施患者のほとんどが、自宅退院もしくは老人保健施設などの中間施設への入所となっている。そして、高齢者の慢性心不全患者は、何度も入退院を繰り返す。このことは、何を意味するのか？

一方、リスク管理というと、急性期病院で心疾患患者に対する重要な評価指標と思われがちだが、在宅や施設でのケアにおけるリスク管理は極めて重要と考えている。それは、高齢者に心疾患を合併していることが多く、急性期を脱した患者はすぐに退院するからである。しかしながら在宅や施設でリスク管理を行なううえで、心電図モニターやパルスオキシメーターなど当然常備されていない。

そこで、どのようなフィジカルサインから患者・利用者さんの内部障害に気づいていけるか、長年循環器病棟で勤務している経験をもとにお話をしたい。

テーマ：「認知症の正しい理解とリハビリテーションのポイント」 担当講師：山上 徹也先生

従来、理学療法士にとって認知症は合併症であり、リハの阻害因子と考えられ、積極的なリハが実施されてこなかった。しかし認知症高齢者の増加に伴い、認知症があっても効果的なリハの提供が求められている。そこで本講義ではまず、認知症に対する正しい知識を理解していただき、その上で、認知症があっても効果的なリハを提供するためのコミュニケーション方法やリハプログラムなどを具体的に解説する。また平成 21 年度に日本理学療法士協会が

デイケアの利用者を対象として実施した「在宅における認知症高齢者の生活活動実態把握のための調査研究事業」の結果についても報告する。病院勤務の理学療法士だけでなく、老健、特養、グループホーム、地域などで働く、認知症と関わる多職種の方のご参加をお待ちしています。

<宿題①>

認知症は病名である。ホントかウソか？

<宿題②>

この道具の名前と使用方法は？

※答えは当日講演内でお話しします。お楽しみに。



定員 : 50名程度 **※事前登録要**

懇親会 : 4,000円程度(予定)

11月20日(土)講習会一日目終了後、開催予定

※場所(八戸市中心街)、時間の詳細は後日連絡

※講師の先生方も参加予定であり、貴重な情報交換の場になるかと思っておりますので是非申し込みください。

申込方法: 下記の必要事項記入の上、**メールもしくはFAXにてお申し込みください。**

①講習会名 ②氏名(フリガナ)・性別 ③所属先 ④所属先の TEL・FAX・E-mail

⑤経験年数(〇年目) ⑥情報交換会の出欠 ⑦公文書の有無

⑧22年度協会及び県士会会費納入の有無

申込先・問い合わせ先

〒039-1522 青森県三戸郡五戸町苗代沢3-6 東北メディカル学院 梅村孝博

TEL: 0178-61-0606 FAX: 0178-61-0034 E-mail: pt.umemura@rinken.ac.jp

申込開始・締切日: 平成22年8月2日(月)～10月15日(金) 17:00

※受講決定通知及び講習会の詳細につきましては、決定次第、メール等でご連絡します。

※受講者が定員を超えた場合、こちらで各所属施設または各支部で調整させていただく場合がございますので、ご了承ください。

青森県理学療法士会 上十三支部・青森支部 合同研修会のご案内

上十三支部長 相坂 隆之
青森支部長 小村 博

謹啓 貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、青森県理学療法士会上十三支部と青森支部合同で下記の研修会を企画いたしました。講師の荻野敏先生は、初期から日本認知神経リハビリテーション学会(旧日本認知運動療法研究会)の理事を務められ、所属病院での臨床をしながら、先日もイタリアで1ヵ月の研修を受けておられます。なぜ今、認知運動療法なのか？イタリアでの臨床場面を含めながら興味深い内容を御講義いただけることと思います。どうぞ皆様、奮ってご参加ください。 謹白

記

主催: 青森県理学療法士会 上十三支部・青森支部

後援: 青森認知運動療法勉強会

日時: 平成22年9月26日(日) 9:30～15:30(9時受付開始)

場所: 東北メディカル学院 3階 大教室

講師：荻野 敏 氏（国府病院 認知運動療法士/理学療法士，日本認知神経リハビリテーション学会（旧日本認知運動療法研究会）理事）

内容：午前「認知運動療法から臨床をみる」
午後「認知運動療法の臨床場面－タブレット－」

対象：リハビリテーション従事者（PT・OT・ST など）

定員：60名【要事前申込】

受講料：青森県理学療法士会会員－無料
会員以外の方－500円(当日徴収します)

懇親会：会費4,000円程度
前夜（9月25日）八戸市中心街で開催予定です。
懇親会参加希望者に後日詳細を連絡いたします。

申込方法：下記の必要事項記入の上、メールまたはFAXでお申込み下さい。
メールでのお申し込みの際は、件名に必ず「合同研修会申し込み」と明記下さい。

- ①氏名（フリガナ）・性別
- ②職種（理学療法士の方は青森県理学療法士会会員／非会員を明記のこと）
- ③所属先 ④所属先のTEL・FAX・Email アドレス ⑤経験年数（〇年目）
- ⑥懇親会の出欠

申込締切日：9月15日（水）

※青森認知運動療法勉強会ホームページ（Yahoo!またはgoogleで検索をお願いします）から、専用申込フォームでの申込も可能です。

申込先・問合せ先：

〒034-0041 十和田市大字相坂字高清水 78-450

介護老人保健施設ハートランド 桜田由紀子

TEL：0176-25-0122 FAX：0176-25-0033

Email アドレス heartriha@yahoo.co.jp

（本研修会専用アドレスです。お申し込みの際は、=を半角アットマークに書き換えてから送信してください。）

※会場近隣のコンビニ・食堂までは距離がありますので、昼食は各自で御用意下さい。

青森認知運動療法勉強会 特別研修会のご案内

青森認知運動療法勉強会 代表 桜田 由紀子

謹啓

時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、当勉強会では下記の通り、畿央大学健康科学部理学療法学科教授 森岡 周氏をお招きして、特別研修会を開催する運びとなりました。リハビリテーションのための認知神経科学など興味深い内容を御講義いただけることと思っております。どうぞ皆様、奮ってご参加ください。

謹白

記

主催：青森認知運動療法勉強会

後援：青森県理学療法士会 青森県作業療法士会 青森県言語聴覚士会

日時：平成22年10月24日（日） 9時30分～16時30分（9時受付開始）

場所：青森県立保健大学

講 師：森岡 周 氏 畿央大学 健康科学部理学療法学科教授
日本認知神経リハビリテーション学会（旧日本認知運動療法研究会）理事

内 容：リハビリテーションのための認知神経科学

対 象：リハビリテーション従事者（PT・OT・ST など）

定 員：100名 【要事前申込・先着順とさせていただきます】

受 講 料：3,000円（当日拝受いたします）

懇 親 会：会費 5,000円程度
前夜（10月23日）青森市中心街で開催予定です。
懇親会参加希望者に後日詳細を連絡いたします。

申込方法：下記の必要事項記入の上、メールでお申込み下さい。メールの件名は「特別研修会申し込み」にしてください。
①氏名（フリガナ）・性別 ②職種 ③所属先 ④所属先の電話番号
⑤経験年数（〇年目） ⑥懇親会の出欠

申込期間：平成22年9月1日～30日

申込・問い合わせ先：E-mail etc_apples@yahoo.co.jp
お問い合わせの際は件名を「特別研修会問い合わせ」にしてください。
青森認知運動療法勉強会ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~cteapple/> の申込フォームからも申込可能です。

※申し込み先着順に漏れた方には、改めてご連絡いたします。

平成22年度 第1回青森ボバース研究会研修会のご案内

メデュカルコート八戸西病院 作業療法士 階上 由貴

日 時：平成22年10月16日（土）14：00～18：00（受付13：30～）
10月17日（日）9：00～12：00（受付8：30～）

場 所：メデュカルコート八戸西病院 3階リハビリテーション室

講 師：瀧 雅子 先生（誠愛リハビリテーション病院 作業療法士 IBITA 上級者講習会インストラクター）

テーマ：『高次脳機能障害の捉え方と治療』

定 員：80名程度

参加費：青森ボバース研究会会員 2,000円
非会員 3,000円

※1日・両日参加とも一律となります。また参加費は当日徴収となります。

懇親会：5,000円程度（予定）

※10月16日（土）終了後、八戸市内で懇親会を予定しております。

お申込：件名に「平成22年度第一回青森ボバース研究会研修会」と記載し、
下記の必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。

- ①氏名（フリガナ）・性別 ②職種 ③経験年数 ④基礎講習会の有無
⑤青森ボバース研究会会員の有無 ⑥参加日（両日参加、1日目のみ、2日目のみ）
⑦懇親会参加有無 ⑧所属先 ⑨所属先のTEL・FAX・E-mail

申し込み・問い合わせ先：

〒039-1103 青森県八戸市長苗代字中坪77番地
メデュカルコート八戸西病院 リハビリテーション部
TEL 0178-28-4000 FAX 0178-28-4137 E-mail otsilver@sg-silver.or.jp
担当 OT 階上 由貴 PT 齊藤 紘子

受付期間：平成**22**年**9**月**1**日（水）～**9**月**25**日（土）必着

参加希望者が多数の場合、お断りする場合がございますのであらかじめご了承ください。なお参加の可否につきましては、締め切り後に**FAX**または**E-mail**にてご連絡致します。

その他：上履きをご持参ください。当日実技を行う可能性もありますのでジャージ等の動きやすい格好、デモンストレーションの際には、白衣等のご準備をお願い致します。駐車場は備えておりますが、可能な範囲で乗り合いにて御来院頂きます様お願い致します。

各部局通信

【事務局通信】

事務局長 後藤 明教

勤務先異動・改姓・自宅住所変更等により、会員登録に変更が生じた場合は、会員異動届（協会ホームページよりダウンロード可）に必要な事項を記入の上、士会事務局まで送付して下さい。また、協会の機関誌が届いていない場合は、士会事務局へお問い合わせ下さい。

会員動向（平成22年6月21日～7月20日）

＝会員異動＝

県内異動会員（2名）

菅原千恵子 旧勤務先：八戸在宅クリニック
新勤務先：訪問看護ステーションケアポート
石川 孝幸 旧勤務先：金浜療護園
新勤務先：特老祥光苑

転出会員（1名）

下永吉智栄子 旧勤務先：メディカルコート八戸西病院
新勤務先：千葉県士会

改姓会員（1名）

松原（旧性 川崎）靖子 八戸赤十字病院

（敬称略，順不同）

【財務部通信】

会費未納者について（8月20日現在）

★ 18 年度会費納入について★

岩井 和広（18 年度士会費不足分 11,000 円のみ）

☆振込先☆

みちのく銀行 本店営業部

店番番 014 口座番号 2615776

名義名 一般社団法人 青森県理学療法士会 代表理事 伊藤 和夫

※名前を ATM にて入力して下さい。

★ 20 年度会費納入について★

岩井 和広, 三浦 舞子, 相内 淳, 堀切 悟史

★ 21 年度会費納入について★

岩井 和広, 三浦 舞子, 相内 淳, 堀切 悟史, 畑山美佐子

○新入会員は 20,000 円を下記のみちのく銀行へ

田中 稔泰

★ 22 年度会費納入について★

◎クレジット決済の会員

5月27日(火)に引き落としになりました。通帳には【NS ニコス その他, 合算の引落金額】と記載されますので確認して下さい。

◎ニコスにて自動引き落とし利用の会員

5月27日(火)に引き落としになりました。通帳には【NS PT キョウカイ 23,000】と記載されますので確認して下さい。来年度に向けて、クレジット付会員証の作成をお願いします。

◎クレジット無し会員証の会員・自動引き落としを利用していない会員

下記へ振り込みして下さい。

◇士会費 12,000 円の振込先 振込み手数料 210 円

みちのく銀行 本店営業部

店番番 014 口座番号 2615776

名義名 一般社団法人 青森県理学療法士会 代表理事 伊藤 和夫

※名前を ATM にて入力して下さい。

◇協会費 11,000 円の振込先 振込み手数料 120 円

郵便振替で 口座番号 00130 - 3 - 78642

加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

〈記入例〉〔平成 22 年度会費 1 名分 佐藤洋 8692〕→協会会員番号

と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

領収証の発行について

協会事務局より発行可能です。引落後に発行しますので、必要な会員は協会事務局まで会員番号・氏名・金額を御連絡下さい。同施設の会員には、まとめて送付します。

日本理学療法士協会事務局 会費担当：西川 忍まで

協会ホームページ内 お問い合わせ jpta@i.bekkoame.ne.jp より依頼して下さい。

会費が施設負担の会員

原則的にはクレジット付会員証を作製し、通常通りクレジット決済(領収証発行にて対応)となります。但し、事情により一旦個人払いが難しい場合は、申込は通常通り行って下さい。会費の請求のみ停止します。必ず協会まで御連絡下さい。会員証申込書の表面宛名欄には記入可で、内面には記入不可です。

会員証発行不可の会員

時間をおいて再申請してみてください。発行可となる場合があるそうです。

会員証の詳細は協会のホームページにも載っていますので、是非ご覧ください

不明な点は

事務局 財務担当理事

同仁会浪打病院 リハビリテーション科

佐井川 匠秀

E-mail reha@namiuchi-hp.com

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

TEL 017-741-4341

FAX 017-743-3094

財務担当

国立病院機構 弘前病院 理学療法室

佐藤 洋

E-mail ptsato@hirosaki-lan.hosp.go.jp

TEL 0172-32-9968 (直通)

【ニュース編集部通信】

原稿受付に関するお知らせ

◎原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、下記の各支部担当者に E-mail, FAX のいずれかにて送付して下さい。また、各支部担当者の連絡先をお確かめの上、お問い合わせまたは原稿の送付をお願い致します。

なお、ご不明な点につきましては、編集部長または各支部担当者までお問い合わせ下さい。

次回の原稿締切日：平成22年10月18日(月曜日)

★ホームページにも情報が掲載されております★

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.ptaomori.org/>

§ ニュース編集部支部担当者 §

●会員の皆様は、自分の支部のニュース編集部員をご確認の上、原稿をお送り下さい。

青森支部：新山 典子（あおり協立病院）

〒 030-0847 青森市東大野 2-1-10 TEL 017-762-5500 FAX 017-729-3260

E-mail kyouritupt@gmail.com

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

八戸支部：田中 賢幸（メディカルコート八戸西病院）

〒 039-1103 八戸市長苗代字中坪 77 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail ptsilver4000@sg-silver.or.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

津軽支部：一戸 亜季子（ときわ会病院）

〒 038-1216 南津軽郡藤崎町榊字亀田 2-1 TEL 0172-65-3771 FAX 0172-65-3773

E-mail h06gg403@yahoo.co.jp

西北五支部：幡野 克仁（尾野病院）

〒 038-3151 つがる市木造若竹5 TEL 0173-42-2133 FAX 0173-42-3834

E-mail onorehapt@aomori-seijinkai.or.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

上十三支部：清水 涼子（十和田市立中央病院）

〒 034-0093 十和田市西 12 番町 14-8 TEL 0176-23-5121 FAX 0176-23-2999

E-mail rihabiri@hp-chuou-towada.towada.aomori.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

下北支部：四ツ谷 隆輔（東通村診療所）

〒 039-4222 下北郡東通村砂子又字里 17-2 TEL 0175-28-5111 FAX 0175-28-5601

E-mail higashi.pt@e-nohana.com

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

事務局ニュース編集部長：藤田 俊文（弘前大学大学院保健学研究科）

〒 036-8564 青森県弘前市本町 66-1 TEL 0172-39-5981 (直通&FAX 兼用)

E-mail pttoshi@cc.hirosaki-u.ac.jp

編集委員：山田 克彦（国立病院機構弘前病院）

原田 久美子（黒石病院）

對馬 新吾（ときわ会病院）

中村 学人（弘前脳卒中センター）

宮川 舞子（介護老人保健施設つがる）

金子 奈南夏（ときわ会病院）

外交局ホームページ担当：山谷 光仁（十和田市立中央病院）

E-mail mitsuhiro@nifty.com

編集後記

猛暑の続くこの頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

ここ数年、ねふたの時期は涼しい印象でしたが、今年の夏は異常なまでの暑さに体がおかしくなりそうです。そのため、冷房が効いたところにいたくなりますが、あまり長時間いるといわゆる「冷房病」になるかもしれません。これは、冷房の効いたところに長時間いた後、外気温にさらされることを繰り返したときに起こるとされており、自律神経の機能不良が原因です。体調を崩さないためにも、またエコのためにも、冷房は極端に効き過ぎないようにし、適度に運動して汗をかくことで体温調節機能を刺激しましょう。

最後に、なぞかけをひとつ。とといました！「炭酸が効いたビール」とかけて「かわいい彼女」と解きます。その心は？「気を抜くとまずいことになります・・・」。ふじっちです！

(文責：藤田)

奥 付

編集；青森県理学療法士会

発行；PT 事務局 鱒ヶ沢町立中央病院リハビリテーション科内

〒038-2761 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町舞戸町字浦生 110-1

TEL・FAX 0173-72-5860

E-mail aomori-rigakukai@ptaomori.org